

洋書輸入協会会報

VOL. 24
NO. 12

(通巻284号) 1990年12月

理事会報告

10月26日(金)

(一) JBJA DIRECTORY 1991

従来通り発行することとなった。印刷製本代の上昇を反映して、若干の価格値上がりになることが報告された。

(二) 洋書まつり

約20社が参加し、二日間で470万円の売上があったことが報告された。

(三) その他

11月14日(水)

(一) 10月分収支計算・予算対比表

松井幸雄総務委員長(丸善)の報告を承認した。

(二) JBJA50周年記念事業計画小委員会

委員長に佐々木大刀夫氏(第一)、副委員長に渡辺正憲氏(洋販)が選出されたことが報告され、また柴田三夫氏(事務局)を委員に追加したい旨提案があり、これを了承した。

(三) その他

海外ニュース

「L & F社が ウェヴァリー・グループに」

アメリカの医学書出版社 Lea & Febiger は、本年末に Waverly Inc. に買収されることになった。Waverly Inc. は、ご承知の通り Williams & Wilkins の親会社であり、最近では Urban & Schwarzenberg と Harwal Publishing を買収して傘下に収めている。Waverly Inc. はこれにより医学書出版では一大勢力にのし上がってきたことになる。

L & F 社は、これまで通りフィラデルフィアの本社で、トップの経営陣もそのまま残って、独自の出版活動を続ける。社名も残るが、電子出版部門は、W. & W. 社の同部門と統合される。

L & F 社は1785年創立、医学、歯学、薬学、獣医学、保健衛生等の分野を専門とし、年に約60点出版し、年商約1,100万ドルを挙げている。

(BPレポート、11月5日号等より)

—(株)紀伊國屋書店提供—

理事会報告..... 1	東京の坂と橋と	書籍展示会のおしらせ 7
海外ニュース..... 1	文明開化(9)..... 5	おしらせ 7
洋書輸入協会史(58)..... 2	文化厚生委員会だより	広 告 8
海外ニュース..... 4	フォーティ・ラブ(テニス同好会) に参加して..... 6	

洋書輸入協会史 (58)

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

61 事後通関、一括通関及び各地税関の見解統一に関する陳情（前号よりの続き）

61.3 陳情に対する大蔵省の回答

昭和33（1958）年8月8日に大蔵省主税局税関部長宛に提出した「書籍及び定期刊行物の郵便ならびに航空便による輸入通関についてのお願い」という陳情文に対し、8月13日付で大蔵省は次の通知を各地の税関長宛出状すると共に、洋書輸入協会宛にその旨を知らせてきている。

記

洋書輸入協会理事長殿

昭和33年8月13日

大蔵省税関部長 木村秀弘

書籍及び定期刊行物の郵便ならびに
航空便による輸入通関について

標記のことについて、別紙のとおり各税関長宛通知したので、お知らせする。

[別紙]

（各地の税関長宛） 殿

昭和33年8月13日

大蔵省税関部長 木村秀弘

書籍及び定期刊行物の郵便ならびに
航空便による輸入通関について

標記のことについて、洋書輸入協会から別紙のとおり願出があったが、事情ももっともと思われるので、委細別紙(注)によりしかるべく取り計らわれない。（以上）

（注）委細別紙は、61.4に記載。

洋書輸入協会は、8月15日付JBIA No.34でこの件を会員に周知している。実際問題として、この願出書に対する大蔵省税関部の反応の早さと、対応策指示の敏速さには、理事一同驚き、さすが本省と感嘆したものである。しかしこの指示を受け取った各地税関の側にとっては、従来の行きがかり上簡単にはいかず、種々の問題がおこるだろうと思われたので、理事会は早速8月18日付JBIA No.36で、協会員に対し次の要請を行っている。

記

書籍及び定期刊行物の郵便による
輸入通関についての注意の件

標記の件につきましては度々東京税関外郵出張所の方々と懇談しており、既に御承知のこととは存じますが、今般JBIA No. 31およびNo. 34にて通達の通り、破格のお取扱いが確認されましたので、此際一層の御注意を以て輸入品に対するI/Lを早急に取得すると共に、其の記載事項に合致したInvoiceその他の添付書類と共に、遅滞なく税関に輸入手続をして裏書を受けられる様、一層の御協力をお願い申します。

尚次回懇談会には、再度東京外郵出張所の方々を招き懇談する予定です。（以上）

（注）アンダーラインは筆者。

61.4 大蔵省税関部長よりの通達の全文

前項に記載した8月13日付、大蔵省税関部長より各税関長に宛てた通達文の中にある「委細別紙」は、関税旬報（日本関税協会発行）9月11日付第302号に掲載されたので、9月30日付JBIA No.45によりその全文を会員に知らせている。

記

書籍及び定期刊行物の郵便ならびに
航空便による輸入通関について

昭和33年8月12日 蔵税第1129号

この通達は書籍及び定期刊行物の郵便等による輸入通関について、便宜措置を認めることとしたものである。

(1) すなわち、船便を利用して輸入される書籍及び定期刊行物は、書籍等の総輸入量に比べ、きわめて少量であって、その大部分は郵便、すなわちBook PostあるいはPrinted Matterで輸入されているが、輸入業者は輸入承認証を、本社において取得したのち、外国商社に発注し、代金の決済は当該本社と外国商社との間で行われ、貨物はその本社、支社または出張所等に送本されるほか、特に定期刊行物の多くは、各地の大学、図書館、研究所、会社および個人宛直接送られている実情である。

このため、その管轄外郵出張所に対して、それぞれ輸

入申告することは事実上無理であり、また通関の事実を確認することも難しいので、外国商社から送られるインボイスを入手次第、輸入者の本社所在地（輸入承認の取得地）の税関において、事後一括して通関手続を行うこととする。

（注）アンダーライン筆者

(2) 輸入者がたびたび注意しても慣習上インボイス面に署名がないもの、あるいは郵税が仕切られていないもの

（Post Paid郵税込）、その他政府、学会等特殊刊行物のため、インボイスの送付がなく、商社の注文書に価格その他必要事項を記載の上返送されるものがあるので、これらについては、輸入者から誓約書を提出することによって通関することをあわせ便宜認めることとする。

(3) なお、この取扱いは税関が特に必要とする場合を除き、特に便宜的に認められるものである。（以上）

61.5 大蔵省税関部長通達後における東京税関外郵出張所との懇談

8月13日付の通達は出たが、各地税関では案の定B/Cの場合のI/Lの取り方などをはじめ問題や疑義が多発した。そこで8月22日には早くも東京税関の大川外郵所長、内藤業務係長、竹田審査係長、羽田航空郵便局の税関より田無業務係長などに御集まりを頂き、協会理事会全員と懇談の機会を持った。

席上では緊迫したやりとりが続いたが、税関側の趣旨は、「本の輸入に伴う特殊性というのは良く分るが、税関の機能の一角を麻痺させるような取り扱いをするのは、国民の定めた法律を守るべき税関としては承服しかねる。またこのような方法を認めてその盲点を突かれると、不正行為は思いのままとなる。」「大蔵省の本省側こそ、厳密なチェックを税関現場に要求されるべきであるのに、このような寛大にせよとの通達が出ることは誠に意外である。」「税関側としては今後とも不審な点はどんどんチェックしたい。」ということであった。

これに対し協会理事会側は、「御趣旨は誠にございましてあるが、予想される不正を以て、全般の機能を阻害するような措置は取らないで頂きたい。」と反論し、税関側から指摘された多くの問題点に対し、一つ一つ説明を加え御諒承を願った。例えば税関側からの「荷物が到着してしまってからライセンスを取るのとは明らかに違反であ

る。」という指摘に対しては、「外国出版社の商習慣及び資金事情などにより、實際上輸入してしまってからライセンスを取得することが多い。例えば、本の注文を出すと、インボイスを航空便で別送することをせず、普通便で別送するか、ないしは荷物の中に入れて送ってくることが多い。このような場合はどうしても輸入後にライセンスを取ることになる。」などと縷々実例を挙げて説明、やっと税関側の了承を得ることが出来たというような経過であった。

なお当時は、インボイスの航空便による別送は、出版社側で「余計な出費だ」として承知せず、これを日本の通関事情を説明してやっと了承して貰うといったことが多く、現在のようになるまでにはいろいろな点で、外国出版社と日本の税関側との間に立つ洋書輸入業者の苦勞の積み重ねがあった。

61.6 羽田税関支署との航空便取り扱いに関する懇談

羽田税関支署との間も、大蔵省税関部長通達後にも何かと問題を生じていたので、10月3日には、理事一同で羽田税関を訪問、航空便の通関の問題で陳情と協議を行った。この時には東京税関東京外郵出張所から所長が羽田へ転勤された直後であり、そのためもあってかスムーズに進行した。協議の結果は、「今後 Air Mail の荷物は Free で配達する。そしてその際必ず通知を出すから、業者側は1カ月に1回、その1カ月分の書類をまとめて羽田税関まで通関手続に来るように」とのことであった。従来そのつどに比較すると、1カ月に1回の羽田行きであれば、航空便は Free Pass で事後通関というのが建前となり、現状よりも大きな前進であるので、我々もこれを諒承し落着いた次第である。この結果は、昭和33（1958）年10月3日付のJBIA No.49の「羽田税関支署の航空郵便物の取扱いについて」で会員に周知されている。

61.7 書籍および定期刊行物における事後通関その他の原則確立の意義

昭和33（1958）年のこれらの一連の出来事は、書籍および定期刊行物が、戦後次第に郵便物による輸入が増え、更に航空便や航空貨物の利用が増加し、また購読者へ直送される定期刊行物の種類、量が急速に増大しているという情勢の変化と共に生じてきた問題を、解決するものである。即ち書籍及び定期刊行物については事後通関の

原則を確認し、全国各地の税関を経由しても通関手続は本社所在地において行ってもよいという原則を確立出来た点で画期的な意義を持つ。

これらの情勢変化は、昭和31～32（1956～57）年の神武景気によって加速されたものであり、大蔵省税関部のこの時期における英断によって、昭和34～36（1959～61）年の岩戸景気を業界として乗り切ることが出来たのである。

情勢の変化はその後も続いており、平成2（1990）年11月23日の新聞によれば、10月の貿易額は横浜の8,828億円に対し、成田は9,197億円で全国一位という数字が発表になっている。戦後細々と航空便による輸入が始まったことを思うと、航空機による輸送の発達が目を見張るばかりのものである。通関業務も、これら情勢の変化と共に今後も変化を続けていくであろう。（続く）

海外ニュース

「米国書籍の輸出急伸」

米国商務省が発表した統計によれば、1990年前半期（1月～6月）のアメリカの書籍の輸出額は、70,370万ドルで27.8%増、部数では68,850万部で27.0%の伸びであった。これに対し、書籍の輸入額は36,910万ドルで10%足らずの伸びにとどまったから、貿易黒字は33,460万ドルにのぼった。

輸出の相手国で最大なのはカナダで32,000万ドル。これは70%もの増加だが、統計のとりかたを変えたため、必ずしも正確に実態を反映していないようだ。次いで大きい順に並べると、イギリス（8,870万ドル）、オーストラリア（5,470万ドル）、日本（4,250万ドル）、西ドイツ（1,990万ドル）である。

（BPレポート、vol.15、No.40より）

「キャリア社売られる」

アメリカのマクミラン社は、イギリスのマクミラン社と区別するためにアメリカ以外の地域ではCollier-Macmillanと名乗っていたが、それほどCollier社はマクミラン・グループの中でも重きを置かれていた。そのキャリア社が、このほど親会社の手によってドイツのBibliographisches Institut & F.A. Brockhaus AGに売られることになった。

このCollier社はCollier's EncyclopediaやMerit Students Encyclopediaなど百科辞典の版元として知られ、年商は約8千万ドル。一方のB.I. & F.A. Brockhaus社は、ドゥーデンの辞書やマイヤー百科事典で知られるB.I.社と同じく辞書・事典類の大手F.A. Brockhaus社が合併してできた会社で、その大株主は、やはりドイツのLangenscheidt社である。

正式に買収契約が成立するのは11月半ばとのことで、その金額はまだ公表されていない。いずれにせよこの売却は親会社のマックスウェル・コミュニケーション・コーポレーション（MCC）の赤字解消を目的としたもので、MCCはこのほかにもイタリアの児童書出版社Paniniをも売りに出している。

（BP report、10月15日号他より）

「プットナムが松下に？」

いま日本の松下電器によるMCA買収が話題になっているが、もしこの買収が成立すれば、松下電器はアメリカの大手出版社を所有する日本ではじめての会社となる。

MCAは、ユニバーサル映画、ユニバーサル・テレビ、モタウン・レコードのほか遊園地や映画館を所有するコングロマリットで、その出版部門としてPutnam Berkeleyグループを持っている。この出版部門の総売上高は1989年度では34億ドルで、MCAの全体の売上高の6%を占めている。

（P-W、10月12日号より）

— 憐紀伊國屋書店提供 —

東京の坂と橋と文明開化 (9)

吾妻橋と浅草の文明開化〔1〕 吾妻橋と明治鉄橋小史

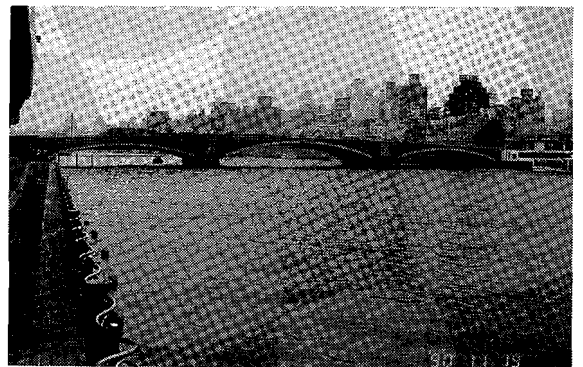
丸善・本の図書館 鈴木陽二

隅田川に魅せられた文学者は多い。「忽ち^{ともしび}燈の光の消えて行くようにあたりは全体に薄暗く灰色に変色してきて、満ち来る夕汐の上を滑って行く荷船の帆のみが真白く際立った。」永井荷風は心にしみいるような美しい筆で隅田川を描いている(『すみだ川』)。また別の文章で水の流れは見ているものに空想の喜びを与えると書いているが、そういう心が川への魅力をかきたてるのであろうか。隅田川はこの大都会にあるためになおのこと人々に郷愁に似た思いを抱かせ、暖かく懐かしい存在となって魅了する。

明治40年に東京市の編纂で発行された『東京案内』で吾妻橋を「舊名大川橋、安永3年私費を以て架せられたるを初めとす。今の橋は明治廿年の架換、卅一年の修理にして、鉄橋也」と紹介しているが、この明治20年の架設は隅田川で最初の鉄橋という栄を担ったものであり、その時の開橋行事は貴賓列席のもとに華やかに行われて話題を呼び、洋式の本格的な長大橋として訪れる人が多かったという。現在の吾妻橋は昭和6年に架け換えられたもので鋼鉄のアーチ橋であるが、明治のそれは練鉄のトラス橋でその時の『郵便報知』に鉄材は石川島造船所の製作になり、橋は凝ったデザインや構造であったことが報道されている。明治45年に隅田川に架設された新大橋の一部が明治村に保存されていて、今でも当時のトラス式長大橋をイメージすることができる。ところで、この吾妻橋は原口要によって設計されたが、彼はアメリカで工学を勉強し、日本人としては初めてアメリカの技師の待遇を得た逸材で、のち東京府の技師長となった。日本の橋梁技術は土木工学の中では一番遅れた分野で、これを挽回したのは関東大震災の復興橋梁であったというが(伊藤孝『東京の橋』)、外国人の手になり材料は輸入にたよっていた洋式橋梁は、明治も10年代になってようやく日本人により道路橋の設計や橋材の製造が行われるようになった。原口はその第一人者として^{たかばし}高橋(明治15年)や浅草橋(明治17年)などを手がけ、次いで吾妻橋を設計することになる。深川の富岡八幡宮のすぐ横手、以前は木場の川筋が巡っていたその一角で今は遊歩道になっているところに八幡橋という橋が赤い姿で架かって

いる。この橋は明治11年に築地に架設された旧弾正橋で、これが国産の第一号鉄橋として今は国の重要文化財に指定されている。日本の初期の頃の鉄橋としては、明治2年に長崎で「くろがねはし」が架せられ、また同年、英国人R.H.プラントによって設計、施工された横浜の吉田橋、明治4年の東京の新橋(東京で初めての練鉄橋)などが『明治事物起源』に紹介されている。ちなみに、日本の道路橋として最初の鋼橋はやはり隅田川に架かる永代橋で明治30年に架橋された。ついでに言えば、日本で初めての鉄筋コンクリート橋は明治36年の琵琶湖疏水橋であるが、同じ年に東京で堀の内橋と駒込橋がそれぞれ造られた。

さて、吾妻橋は武蔵を結ぶ重要な橋でもあり、また隅田川の流勢の関係で鉄橋が採用されたのであるが、橋面が木のままであったため関東大震災で燃え落ち、多くの犠牲者をだした。橋はその姿ばかりでなく、それぞれの歴史と物語で一層人々を引き付ける。大川端と吾妻橋は小山内薫や永井荷風、北原白秋など、この界限を愛した多くの文士達によって小説や詩や随筆の舞台となる。久保田万太郎はすでに消えてしまった明治の吾妻橋に哀惜の心情を吐露する。「雷門に立って遠く東をみるとき、つねにその真つ黒な、岩畳をきはめたものが、その鬱然たる存在が、郵便局のまへの人波のかなたに、せゝこましくその行くてを遮ってゐたのである。…どんなにそれが、そのせゝこましさが、かれらに、浅草めぬきの部分の「名所的風景」を感じさせたことだろう。」(『隅田川兩岸』)。



吾妻橋

フォーティー・ラブ（テニス同好会）に参加して

最近は何故か“Stay Young”志向が強くなってきた事に若干無念さを覚えながら、秋の定例合宿に参加しましたので、感じた事を文字にして、例えうまくなる事が出来ずとも、仲間たちと和気あいのゲームに参加する事の楽しさをお伝えしたいとおもいます。

一・二年前までは、テニスクレージーで通っていた筆者でしたが、今はやっと此の山中湖畔ロッジ花月園のコートを目の前にしても、森林浴を感じる事が出来る余裕を感じました。それにしても10月20日…21日（土・日）の二日間は、回りの緑からオゾンが降り注いでくるような爽やかさでしたし、フォーティー・ラブの晴天記録が更新し、身も心も満たされた合宿でした。

参加者は若干少なめの14名でしたが、女性の参加が4名と賑やかなグループとなり、腕前もなかなかのものでしたから、全員ゲームに堪能できた事と思います。何時もの事とは言え、マテフレックス・コートは球が滑り、皆それぞれ戸惑いがあるようです。それだけ面白さが増すわけですが、すっかり夜の帳が下り、珍しくレストランの中での洋食とワインの夕食が終わると、アフター・テニスの団らんとなるのです。最近はレギュラー・メンバーが大半で、すっかりファミリー・テニスのような雰囲気定着してきました。もっと大家族になるよう多くの方々の参加を期待しています。話題も豊富で、春の合宿では全米オープン・ゴルフやWカップ・サッカー、今回はセイコー・スーパー等、概ねスポーツが中心になっています。

ところで少し気に掛かった事がありました。それは、今年になって、以前来る度に姿を見せてくれた可愛いリス達が全く居なくなっただけなのではないのです。もしかすると、自衛隊が富士の裾野で打ち鳴らす砲声のせいか、自然破

壊の薬品のせいでしょうか、筆者の通勤路でも、植え込みに蜘蛛の巣が見られない今日この頃です。アメリカ・シロヒトリが居なくなったと喜ぶには一寸心配があるようです。

春の定例合宿は12名のメンバーで専らゲームを楽しみました。6月16日～17日（土・日）二日間の日程は梅雨入り宣言から丁度一週目のウィーク・エンドの事とて、皆天候を気にしながらの参加でした。然し初日の朝のうち、一時間程雨が残っただけで、晴天記録は結局傷つかずでした。もしあの時、天候故に迷った方がおられましたら、フォーティー・ラブは先ず雨に祟られる事はありませんから安心して参加してください。

特筆すべき事は夏の一合宿、即ち強化練習会です。7、8月は実力アップの時期と言う事もあり、何と8月18日(土)に行われた此の催しは、54名参加と言うフォーティー・ラブ始まって以来の新記録をマークしました。或いは既にお聞きおよびの事でしょう。成城グリーンのパークビューも、牛肉たっぷり、ビール呑み放題、人気は抜群です。

世界的な一流プレーヤーにも、ショットやコートや、色々得意・不得意があるのです。我々愛好者にそれがなかったら不思議なのです。腕の良し悪しは気にせずに、時々忙しい仕事から離れて健康な汗を是非一緒に流しませんか。

今回は、今年の活動を纏めて報告させて頂きました。“忙しかった”からなどと言ひ訳はいたしません。“怠惰”の結果に他なりません。でもテニスは疲れても、疲れても、楽しさはいや増すばかりです。“Stay Young”しませんか。またお会いする日を期待して。

(R.A.記/O.B.で活躍中)

書籍展示会のおしらせ——1991

パリ国際書籍展

2月14日—19日

Paris International Book Fair

メキシコ国際書籍展

2月23日—3月3日

International Book Fair of Mexico

ロンドン国際書籍展

3月24日—26日

The London International Book Fair

第28回ボローニャ児童書展

4月4日—7日

28th Bologna Children's Book Fair

イエルサレム国際書籍展

4月28日—5月4日

Jerusalem International Book Fair

国際書籍・出版社展

5月1日—5日

International Fair for Books and Press, Geneva

第36回ワルシャワ国際書籍展

5月15日—20日

36th Warsaw International Book Fair

トリノ図書展示会

5月16日—21日

Torino National Book Fair

第91回米国書籍商協会大会

6月1日—4日

91st American Booksellers Association Convention

香港国際書籍展

8月15日—19日

Hong Kong International Book Fair

モスクワ国際書籍展

9月3日—9日

Moscow International Book Fair

第43回フランクフルト書籍展

10月9日—14日

43rd Frankfurt Book Fair

グアダラハラ書籍展

11月23日—12月1日

Guadalajara International Book Fair, Mexico

おしらせ

憐医学書院、Mosby-Year Book, Inc., Waverly, Inc. の
3社の合併会社が10月1日設立された。

株式会社 医学書院エムワイダブリュー
(Igaku-Shoin MYW Ltd.)

代表取締役 荒木亮一

〒113 東京都文京区本郷3-23-14

ショウエイビル9階

電話：(03) - 5689 - 5400

Fax：(03) - 5689 - 5402

Mosby-Year Book, Williams & Wilkins及びその関連
会社の発行する書籍・雑誌等の輸入、販売、並びに翻
訳出版をその目的とする。

ハーバー&ロウ出版社東京連絡事務所とニューベリ
ーハウス パブリッシャーズ インターナショナル イン
コーポレイテッドは業務を統一することになり、次の通
り社名を変更した。

新社名

ハーバーコリンズ ジャパン、インク

HarperCollins Japan, Inc.

A Division of HarperCollins Publishers

世界の大学案内

世界各国の大学ガイドをご案内致します。下記の3タイトルにより世界中の大学および教育機関に関する最新情報を入手することが出来ます。各タイトルとも継続でのご予約も受け付けています。

(1)カレッジ・ブルーブック 第22版

The College Blue Book, 22nd Ed.

1989: 10 5 Vols. 4,000p. ISBN 0-02-695969-0 ￥54,600

(Maxwell-Macmillan) -US-

アメリカおよびカナダの大学、専門学校および教育機関ガイドの決定版として高い評価を得ています。約3,200校の学費、学生数、年間カリキュラム等の詳細な情報が収録されています。

(2)英連邦諸国大学年鑑 1990年版

Commonwealth Universities Yearbook 1990, 66th Ed.

1990: 09 4 Vols. 3,000p. ISBN 1-56159-000-2 ￥41,790

(Stockton Pr.) -US-

英連邦諸国29ヵ国の大学教育機関の最新情報を収録します。約500校の大学史、住所、組織、図書館、学部等の情報が網羅されます。毎年刊行されます。

(3)世界の大学便覧 第12版

International Handbook of Universities, 12th Ed.

1990: 11 1,302p. ISBN 0-333-43643-1 ￥37,620

(Macmillan) -UK-

英連邦、北米を除いた世界各国の大学および高等研究機関の最新かつ詳細な情報を提供します。世界115ヵ国をカバーし、約7,500の大学、情報機関が収録されています。日本の大学に関する情報は本書に収録されています。2年に一度改訂されます。

日本総代理店



株式会社 **紀伊國屋書店**

電話問い合わせ先
(03)3439-0161

(新館) ☎156 東京都世田谷区桜丘5丁目38番1号

1990年12月 通巻第283号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室

☎271-6901 FAX.271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル

☎371-5329